

第72回全国人権・同和教育研究大会に向けて

人権について考えよう③ 「新潟水俣病」

みなまた

No.1114

令和3年6月25日発行

今年の11月に当市と妙高市を会場に開催される「第72回全国人権・同和教育研究大会」を契機に、市民の皆さんと改めて人権問題を一緒に考えるため、シリーズで紹介しています。

■問合せ…第72回全国人権・同和教育研究大会新潟県実行委員会事務局（教育総務課内 ☎025-545-9220）

新潟水俣病とは

福島県を源流に、新潟市で日本海に注ぐ阿賀野川流域で1965年（昭和40年）に発生した公害病のことを言います。

川漁が盛んな阿賀野川に毒性の強いメチル水銀が混じった工場排水が流されたため、メチル水銀を取り込んだ川魚を多く食べた人たちの神経細胞が障害を受け、手足のしびれやふるえ、視野が狭くなる、うまく話せない、などさまざまな障害が出ました。

新潟水俣病による差別や偏見

この病気が発生した当初は原因が分からなかったため、「伝染病」「タタリ」と誤解されました。

原因が判明した後も住民の誤解は解けず、差別は就職や結婚にまで及びました。

新潟水俣病と認定を受けた人は、救済を受けられるため「金銭目的」「補償金で家を建てた」などとねたまれ、認定されなかった人は「お金目的のニセ患者」と中傷されました。



いやがらせのはがき

提供：新潟県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～

現在も続く人権問題です

新潟水俣病被害者への差別や偏見は、原因が判明した後も新潟水俣病がどのような病気で、なぜ起きたのかなどの正しい知識が十分に伝わらなかったことによるものです。

同じことが繰り返されないように、当事務局では、新潟水俣病の情報や教訓を正しく発信するため、市内小学校での出前授業や、展示パネルの貸し出しによる啓発事業を行っています。

今も差別や偏見によって、新潟水俣病の患者であることを言いたくない人がいます。一人一人が新潟水俣病について正しく理解し、被害者の立場に立って考え行動していきたいですね。

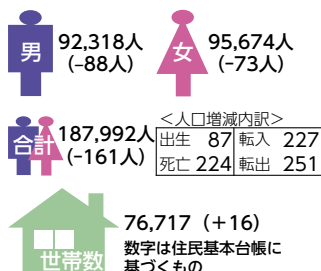
広報対話課から

☎025-526-5111

●「広報上越 8月号」は、7月20日☎・21日☎に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市の人口・世帯数

令和3.6.1現在。()は前月との比較



表紙のことは：上越に聖火リレーがやってきた！

当日はあいにくの空模様でしたが、ランナーはもちろん、沿道やミニセレブレーションの会場は、雨にも負けない笑顔とランナーを応援する大きな拍手であふれていました。

オリ・パラにインターハイと、今年はスポーツに沸く"熱い"夏となりそうです。コロナ禍のいま、テレビやインターネットで熱い戦いを応援しましょう！

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

上越市ホームページアドレス <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>

♻️70 (古紙パルプ配合率70%再生紙を使用)

市の取り組みやイベント情報などを発信中！



LINE



Twitter

編集 943 上越市総務管理部広報対話課
〒8601 新潟県上越市木田1-1-3
有線(JHK) ☎025-526-5111
☎025-526-5111